

日本語文法研究書大成

北原保雄
古田東朔 編

国語調査委員会編纂

島田康行解説

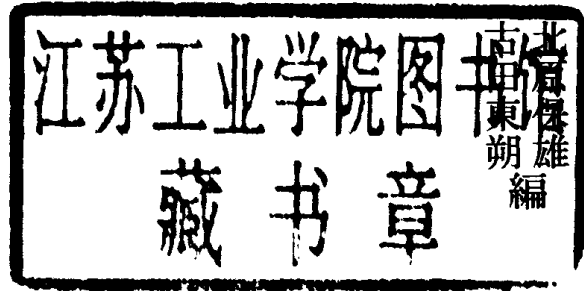
口語法全

勉誠出版

日本語文法研究書大成

国語調査委員会編纂
島田康行解説

口語法全



勉誠出版

日本語文法研究書大成【第5回配本】

口語法全

編集 北原保雄
古田東朔

解説 島田康行

発行者 池嶋洋次

発行所 勉強出版(株)

〒102-0085 東京都千代田区六番町六一四
電話(〇三)五二五一九〇二(代)

平成十二年二月二十五日 発行

印刷 互恵印刷
製本(株)エイワ

ISBN4-585-08035-X C3081

緒言

本書ハ主査委員文學博士大槻文彦立案起草シ起草委員會及ビ本委員會ノ審議ヲ經、更ニ委員文學博士上田萬年、同文學博士芳賀矢一、同文學博士藤岡勝二、同大矢透、補助委員保科孝一ヲ特別委員トシテ之ヲ整理セシメタルモノナリ。

本書ハ尙調査攷究ヲ要スルトコロナキニシモアラザレドモ、姑ク現稿ノマ、之ヲ公ニスルコト、セリ。

大正二年六月

國語調査委員會

例言

一口語法ハ元音ノ部語ノ部文ノ部ヨリ成ル。本書ハ其ノ語ノ部ニシテ現代ノ口語ニ於ケル法則ヲ敘述シタルモノナリ。

一現今我が國ニ於ケル口語ハ、地方ニヨリ頗ル區々ニシテ一致セズ。本書ハ主トシテ今日東京ニ於テ專ラ教育アル人々ノ間ニ行ハルル口語ヲ標準トシテ案定シ、其ノ他ノ地方ニ於ケル口語ノ法則トイヘドモ廣ク用キラル、モノハ或程度マデ之ヲ斟酌シタリ。

一本書ニハ口語ノ法則中其ノ骨子タルモノノミヲ舉ゲ、其ノ他詳細ナル事實ハ之ヲ口語法別記ニ譲レリ。本書欄上ノ數字ハ別記ト照合スル場合ノ合印ナリ。

一本書及び別記ノ假名遣ハ文部大臣ノ假名遣諮問案ニ對シ明治三十八年十一月本委員會ヨリ提出シタル答申書ニ據リタルモノナリ。

目次

目次

自稱 對稱 他稱 不定稱 六七

人代名詞の一覽表 七八

人代名詞の種々の形 八

指示代名詞 八一—二

近稱 中稱 遠稱 不定稱 九

指示代名詞の一覽表 九、一〇

指示代名詞の種々の用法 一〇

「いつ」「なに」「なん」 一〇、一一

「これこれ」「それぞれ」などの用法 一一

「この」「その」「あの」「どの」 一二、二三

第四章 數詞 二一—二八

國語の數詞 二二、二三

漢語の數詞 二三

物事の數のとなえ方 二三—二五

(一) 一日を數えるときのとなえ方 二三

(二) 二人を數えるときのとなえ方 二四

(三) 年・月・場所を數えるときのとなえ方 二四

(四)その他のとなえ方……………一四

「四」のよび方……………一五

「兩」「隻」……………一五

分數・割合・歩合を示す言い方……………一五、一六

倍數を示す言い方……………一六

物事の次第をいう言い方七條……………一六、一七

「いくつ」「いくら」「いく」「なん」……………一七

大凡の數の言い方二條……………一八

數詞に「お」を冠らせること……………一八

第五章 動詞……………一九—四〇

自動詞 他動詞……………一九、二〇

活用の種類……………二〇—二三

五段活用 上一段活用……………二〇、二一

下一段活用 カ行變格活用……………二一、二三

サ行變格活用……………二三

名詞又わ漢語を動詞にすること四條……………二三

活用	の形	三二五
五段活用	の表	三三
上一段活用	の表	三四
下一段活用	の表	三四、三五
カ行變格活用・サ行變格活用	の表	三五
活用形	の用法	二六—三三
第一活用形	の用法	二六、二七
第二活用形	の用法	二七—二九
〔た〕の上で動詞のかゝること		二八
第三活用形	の用法	三〇、三一
第四活用形	の用法	三一、三二
第五活用形	の用法	三二
動詞の時		三三、三四
現在		三三
現在の意のない例	二條	三三、三四
未來		三四
過去		三四
命令の言い方	四條	三三、三四

さし止めの言い方 三四、三五

敬讓の言い方 三五、四〇

敬意を含んでいる動詞二條 三五、三六

丁寧にいう意味の動詞 三七、三八

漢語からのもの 三六

敬讓の意のあるものの命令の形二條 三六、三九

そのさし止めの形 三九、四〇

第六章 形容詞 四〇—四六

第一種形容詞 第二種形容詞 四〇、四一

活用の形 四一

活用の表 四一

活用形の用法 四二—四五

第二活用形の用法二條 四二、四三

第三活用形の用法四條 四三、四四

第四活用形の用法二條 四四、四五

「な」が末にある形容詞 四五、四六

特別な形容詞 四六

形容詞の敬讓の言い方

四六

第七章 助動詞

四六—二三

助動詞の分類

四七—五一

第一類の助動詞

四七—四九

受身の助動詞

四七、四八

可能の助動詞

四八

使役の助動詞

四八

希望の助動詞

四八

推量の助動詞

四八、四九

打消の助動詞

四九

過去の助動詞

四九

第二類の助動詞 敬讓の助動詞

四九、五〇

動詞を敬讓の助動詞に用いること

五〇

第三類の助動詞 指定の助動詞

五〇、五一

第一類の助動詞の用い方

五一—八二

動詞に附く附き方

五一—五九

(一) 受身・可能の助動詞の附き方	五二、五三
可能の「勝てる」「取れる」のこと	五二、五三
(二) 使役の助動詞の附き方	五三、五四
(三) 希望の助動詞の附き方	五四
(四) 推量の助動詞の附き方	五四、五五
(五) 打消の助動詞の附き方	五五、五六
(六) 過去の助動詞の附き方	五六、五七
以上の一覽表	五七—五九

活用の種類	五九、六〇
-------	-------

第一種活用	五九
-------	----

第二種活用	六〇
-------	----

第三種活用	六〇
-------	----

活用の形	六〇—六二
------	-------

第一種活用の表	六〇、六一
---------	-------

第二種活用の表	六一
---------	----

第三種活用の表	六二
---------	----

活用形の用法	六二—六三
--------	-------

第一種活用の助動詞に就いて	六三、七
---------------	------

第一活用形の用法	六二、六三
第二活用形の用法五條	六四—六七
第三活用形の用法四條	六七—六九
第四活用形の用法三條	六九、七〇
第五活用形の用法	七〇
他の助動詞に續く有様の表	七一
命令の言い方	七二、七三
さし止めの言い方	七三
第二種活用の助動詞に就いて	七二—七六
第二活用形の用法二條	七二—七四
第三活用形の用法四條	七四—七六
第四活用形の用法二條	七六
他の助動詞に續く有様の表	七七
命令の言い方	七六
第三種活用の助動詞に就いて	七六—八三
第二活用形の用法	七六
第三活用形の用法三條	七六—八〇
第四活用形の用法二條	八〇
第五活用形の用法	八〇、八一

他の助動詞に續く有様の表	八二
命令の言い方	八二

第二類の助動詞の用い方	八二—一〇〇
-------------	--------

動詞に附く附き方	八二—八六
----------	-------

(一)敬讓の「れる」「られる」の附き方	八二
---------------------	----

(二)「ます」の附き方	八三、八四
-------------	-------

「あそばす」「なさる」などの扱い三條	八四、八六
--------------------	-------

活用の種類	八六—八八
-------	-------

第一種活用	八六、八七
-------	-------

第二種活用	八七
-------	----

第三種活用	八七
-------	----

活用の形とその表	八七—八八
----------	-------

活用形の用法	八七—一〇〇
--------	--------

第一活用形の用法	八八、八九
----------	-------

第二活用形の用法	八九—九一
----------	-------

第三活用形の用法三條	九一—九三
------------	-------

第四活用形の用法三條	九四、九五
------------	-------

第五活用形の用法二條	九五、九六
他の助動詞に續く有様の表	九六
命令の言い方三條	九七—九九
さし止めの言い方	九九—一〇〇
第三類の助動詞の用い方	一〇〇—一二
種類 第一種 第二種	一〇〇—一〇一
他の語に附く附き方	一〇〇—一〇三
第一種のもの附き方	一〇〇、一〇一
第二種のもの附き方	一〇一、一〇一
右の二つに通じたつかい方	一〇一、一〇三
活用の形とその表	一〇三
活用形の用法	一〇三—一〇六
第三活用形の用法	一〇四
第五活用形の用法	一〇四—一〇六
命令の言い方	一〇六
敬讓の意味の加わつたものの用い方	一〇六—一二
種類 第一種 第二種	一〇六

他の語に附く附き方	一〇六—一〇九
第一種のものもの附き方	一〇六、一〇七
第二種のものもの附き方	一〇七
右の二つに通じたつかい方	一〇八、一〇九
活用の形とその表	一〇九、一一〇
活用形の用法	一一〇—一一三
第三活用形の用法	一一〇、一一一
第五活用形の用法	一一一、一一三
命令の言い方	一一三
第八章 副詞	一一三—一二三
動詞を修飾する場合	一二三
形容詞を修飾する場合	一二三
副詞を修飾する場合	一二三
句・文を修飾するもの	一二三
名詞・數詞などを修飾する場合	一二三
第九章 接續詞	一二四、一二五